



新学習指導要領におけるキャリア教育について（４）

今回はキャリア教育の具体的な実践の在り方の続編です。

- (1) 学校の教育活動全体を通じて実施する。(前号掲載)
- (2) 日常の教科等の学習指導及び職場体験活動・(アカデミック) インターンシップなどの職業に関する体験活動等を充実する。

- 教科等（道徳、総合的な学習の時間、特別活動等を含む）を通じた日々の学び
 - ・ 自らの将来との接点、未来に生きる力の実感
- 地域・企業等との連携による体験等を通じた学び
 - ・ 現在の学習と「大人の世界（＝未来の私の世界）」との接点を発見する場でもある
 - ・ 新たな学習課題の発見、自らの「欠け（＝発展・成長の可能性）」の発見にもつながる



◎ 学校における教科等の**意義**の認識の深まり

ここがねらい

- ① 日常の教科等の学習指導を充実する。

教師がもつ
授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」



問題解決の活動



生徒が働かせる「見方・考え方」

育成を目指す資質・能力
(身に付けさせたい力)

「見方・考え方」

＝各教科等ごとの特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、**教科等の教育と社会をつなぐものである**。子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることこそ、**教員の専門性が発揮されることが求められる**。

「2～3分の声かけも重要」

- 今日学んだことは、日常生活の中で誰かと協力するときに使えるよ。
- 大人になっても、今日学んだことは生きるよ。例えば・・・

- ② 職場体験活動・(アカデミック) インターンシップなどの職業に関する体験活動等の充実

「今日の厳しい状況の中でも、活力ある社会の構築に奮闘する出会いの重要性」

「働くことの喜び」と「世の中の実態や厳しさ」の両面を学ぶ

- 「こんな仕事があるんだ、こんな役割があるんだ、こんなすごい人がいる地域なんだ」という発見
- 「この人がこんなに精力を傾けるだけの価値がある社会なんだ、価値ある町なんだ」という発見

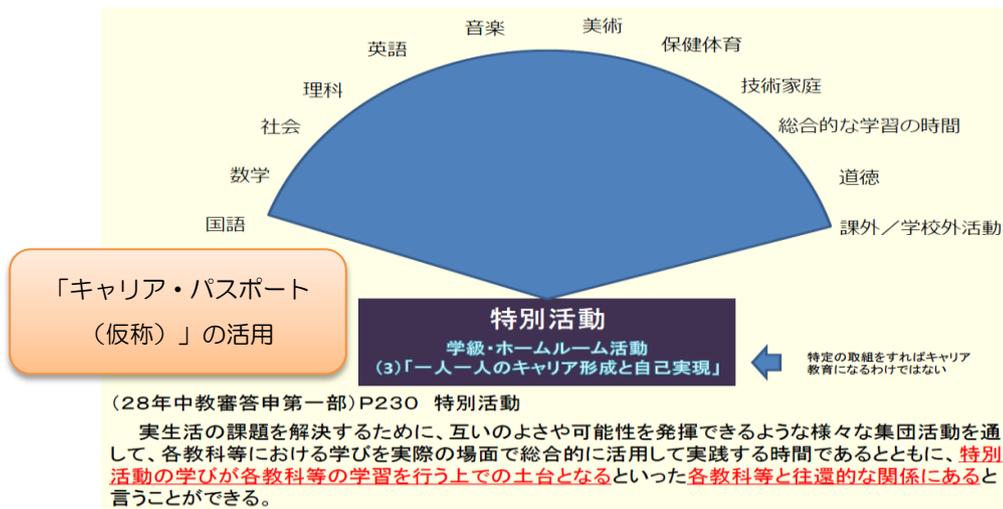


- 仕事、役割、大人、文化との出会い
- 不安解消、自己肯定感醸成の「はじめの一步」



- 「私も将来、社会に貢献できたらいいな、ふるさとに貢献できたらいいな」という芽をもたせるために、「カッコいい姿ではなく、一生懸命な大人の姿」を見せる

(3) 特別活動の学級活動・ホームルーム活動を要とする



「振り返り」と「見通し」の繰り返しが大切なんだ！



キャリア・パスポートについて

「キャリア・パスポート」の様式と指導上の留意事項（案）、キャリア・パスポート（校種別例示資料案）は、文部科学省ホームページ「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議（第3回）配付資料）を参照してください。

中学生キャリアフォーラムを実施しました！（延岡、高千穂）

1月26日（土）延岡市【中学生35名参加】、2月24日（日）高千穂町【中学生、高校生15名参加】において、中学生対象のキャリアフォーラムを実施しました。延岡市においては、「延岡市の魅力を知り、住み、働く」をテーマにグループディスカッションなどを通して自分たちにできることについて理解を深めました。高千穂町においては、町内の中学生、高校生がスーパーティーチャーの田崎香織指導教諭による「生きる幸せ」をテーマとした授業を受けた後、東京大学教授の梶谷真司教授による『哲学対話』に臨みました。両日とも、中学生が真剣に学び、そして自分の思いを語り合う姿が大変印象的な研修会となりました。



延岡市における中学生フォーラム（延岡市の未来）



高千穂町における中学生フォーラム（哲学対話）

小学校で「よのなか教室」を実施しました！

1月31日（木）西都市立三財小学校において、小学6年生を対象とした「よのなか教室」を実施しました。K・Pクリエイションズ株式会社〔広告・印刷〕、株式会社明光社〔総合設備〕の社員の方がよのなか先生となり、ドローンや高所作業車、デザインについて学びました。

